

# 1. 建築と子供たちワークショップ 2001

建築と子供たちネットワーク仙台  
(宮城県仙台市)

## 1. 活動の背景と目的

### 1-1. 背景

建築と子供たちネットワーク仙台は住環境学習を通して子供たちの創造性を育むための活動を実践しているNPOで、アメリカで開発された総合学習のカリキュラム「建築と子供たち」を参考に独自の住環境教育のためのプログラムを開発し、これまでに一般向けのワークショップ・シンポジウムや仙台市科学館での企画展示、学校と協力した環境学習授業を多数行い、住環境学習を通して子供たちの創造性を育むための活動を実践してきた。



堤焼の人形「こいかつぎ」

こうした実践活動を続けている中で、最近では環境教育に関心を持ついくつかの小学校から、2002年度から導入される「総合的な学習の時間」で地域の住環境学習に取り組みたいので社会人講師として協力して欲しいという要請が多く来るようになってきた。

これまでも個々の学校に協力を行ってきただが、「総合的な学習の時間」の本格的実施を迎え、学校ごとの実践だけではなく、これまでに行った各学校の取り組みや成果を一堂に集めて公開することで、多くの学校関係者や市民に住環境教育に対する理解と関心を高めてもらう必要性を感じていた。

そこで今回は、小学校の総合的な学習の時間におけるまちづくり学習の支援や、仙台市北部に位置する江戸時代の焼き物のまち・堤町を舞台にした総合的な学習としての住環境・地域学習ワークショップなどを行い、まちの歴史と現在の住環境を知ることから、子供たちや地域住民に「地域の伝統資源を残しながら未来のまちをつくる」意識を高め、まちの活性化に役立てることにした。

### 1-2. 目的

今回ワークショップを行う仙台市北部の堤町は、藩政時代からの伝統的な「堤焼」の陶器や人形が登り窯とともに残されている地区だが、唯一残る登り窯が時代の変化によって消えようとしていた。そこで登り窯や堤焼のパネル展示、小学生や地域住民・市民を巻き込んだワークショップを行い、次代を担う子供たちや多くの市民にその歴史的な資源を公開し、再認識してもらうことにした。それは、江戸時代に焼き物のまちとして栄えた仙台市堤町地区と現代に引き継がれている「堤焼」の歴史と現状を知り、現在の堤町に対する理解と関心を高めることに



窯元から堤町の歴史を聞く

より、よりよい住環境を考えるきっかけづくりとし、まちの歴史の保存と活性化にも役立てることを目的とするためである。

## II. 活動の内容

### 2-1. 「わたしたちのまちーデザインしよう！未来のまちー」調べ学習

まず、仙台市立東長町小学校と仙台市立東六番丁小学校で、建築と子供たちネットワーク仙台のメンバーが社会人講師としてこれまで教師とともに進めてきた地域の歴史や現在の住環境についてのまちづくり学習（総合的な学習の時間）を更に進め、その内容をパネルとしてまとめてもらった。

### 2-2. 「わたしたちのまちーデザインしよう！未来のまちー」パネル展

作成したパネルを登り窯を利用して展示し、それぞれの学校の発表と学校間の交流を行って住環境学習についての理解と関心を高めるようにした。

### 2-3. まちかど博物館の準備

メンバー20名、仙台市歴史民俗資料館職員有志、大学生ボランティア110名で、窯元のご家族の協力を得ながら、登り窯と旧作業所の内部の清掃および堤焼の陶器や人形の整理を行い、「まちかど博物館」として一般に公開するための準備を行った。

### 2-4. 堤町まち探検ワークショップ

メンバーがファシリテーターとなり、「堤焼」をキーワードにして、小学生とその保護者および地域の住民25名が参加して、堤町の歴史と現在を探訪するワークショップを行った。

ワークショップは五感を使ってまちの中の「気に入ったもの」「気になるもの」を観察してポラロイドカメラで記録してくるというもので、旧奥州街道に沿って堤町を探検した。途中で登り窯と「わたしたちのまちーデザインしよう！未来のまちー」パネル展、後述する堤焼き展を見学、また登り窯に隣接する工房で堤人形作家の指導の下、実際の堤焼の型を使って、粘土で人形の顔を作るワークショップも行った。探検終了後はそれぞれの写真を整理し、発表会を行った。

### 2-5. 堤焼き展

ワークショップ開催日をオープン日にし、登り窯の上屋（堤焼の旧工場）に、藩政時代からの堤焼きのコレクション（生活陶器、人形）を展示し、「堤町まちかど博物館ー堤焼佐大ギャラリー」として一般に公開した。子どもたちはワークショップの途中でここに立ち寄り、実際に使われていたものと同じ堤焼の



登り窯を探検



作家の指導で堤人形制作



堤焼き佐大ギャラリーの見学



登り窯とパネル展



東長町小学校の話し合いの様子

水瓶・井戸杵・火鉢・どんぶり、堤人形などを見学し、堤町の焼き物の歴史と、昔の生活の様子を学習した。

## 2-6. わたしたちのまち・堤焼パネル展

子どもたちのワークショップの様子を紹介するパネルを製作し、「堤町まちかど博物館－堤焼佐大ギャラリー」に展示して一般に公開した。理解と関心を高めてもらう。

## 2-7. 「わたしたちのまち－デザインしよう！未来のまち－」発展学習

堤町でのパネル展を見学した、東六番丁小学校と東長町小学校の6年生は、それぞれの内容に刺激を受け、自分たちの学習を更に発展させて「デザインしよう！未来のまち－宮町をもっと元気にするために」（東六番丁小）、「わたしたちの長町中央公園－続、長町副都心計画プロジェクト」（東長町小）を行った。また都市計画道路建設が予定されている堤町と同様に学区内に区画整理の進む二十人町を抱える榴岡小学校では、パネル展をきっかけに6年生86名がまちづくりを考える学習「二十人町のこれからを考えよう」を行った。



未来の宮町についての発表会

## III. 活動の効果及び今後の課題

今回実施したワークショップは、参加者に好評で、成功だったが、その様子を公開したことにより地域を始め市民からも多くの反響を呼んだ。

開府400年の仙台の歴史を次世代に伝える場として、仙台に唯一残る登り窯とその作業場を活用した堤焼や堤人形を展示する「堤町まちかど博物館－堤焼佐大ギャラリー」は、その後も地域住民・市民の見学者が絶えず、教育関係者からは、総合的な学習の時間等で子どもの地域体験学習の拠点として活用したいとの強い要望が寄せられた。

今後は佐大ギャラリーの展示品に解説を付けるなどして現在の内容を充実させるとともに、佐大窯と隣接する仙台藩番所の御仲下改所（おすあいどころ）跡地、堤町最後の陶工松根金之助の窯・松根窯とその旧作業場を合わせて「堤町まちかど博物館」を核とする地域体験学習センターとして整備する予定である。

そこでは、地域に密着した住環境教育の場としていつでも「建築と子供たちカリキュラム」を活用したワークショップや総合学習の提供ができるようにし、子どもの地域体験学習の拠点として発展活用するほか、地域住民・市民に堤町の歴史と文化そして歴史的資源の保全の大切さに触れてもらいながらよりよい住環境を考えてもらう場としたい。



未来の二十人町デザインの発表